

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2F さくらユニット)

事業所番号	2791400225		
法人名	株式会社 エスカンパニー		
事業所名	グループホーム メイプル箕面		
所在地	大阪府箕面市桜1丁目7-15		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、ご入居者様が安心して施設での日常生活を送っていただけるよう、入居前の面接時から過去の生活歴や趣味・嗜好などをご家族様から聞き取りを行い、ご入居されてからの日常生活の中でのお声掛けやレクリエーション等へのお誘いなどから生活を活性化していただけるように支援させていただいています。また、ご入居者様が、その有する能力の維持・向上していただけるよう心がけ、安心して施設での生活を続けていく事ができるよう支援させていただいています。ご家族様とも連携を密にとるよう努め、情報を共有することでご家族様にとっても安心いただけるように努めています。施設においては、現在のコロナ禍においては一時的に中止してはいるものの、外部から音楽療法として先生にお越しいただいたり、また地域の行事にも積極的に参加させていただき、地域との連携にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は北摂の自然豊かな箕面川の川沿いに立地して、春は満開の桜、初夏には蛍の飛び交う光の幻想的な風景、秋は紅葉等、色々な四季の表情を各居室から感じ取れる環境がある。経験豊富な管理者の下に有資格者の職員も多く、2人のユニットリーダーは開設当時から10年間勤務し、職員の意見、要望等をしっかりと受け止め、常に質の向上に努める姿勢は利用者、家族に安心感を与えている。今年度はコロナ禍で色々な行事、イベントが中止となったが、従来はプロの音楽家を招いてコンサートの開催や自分たちで野菜を育て、それを食卓でみんなで美味しく食べる楽しみ事、季節に沿って、多種多様な行事・企画を開催している。地域との協力関係は良好で、安心して穏やかに生活ができる環境づくりに努め、人の輪を大切に地域に根差した施設作りを目標に努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、共有しながら、実践に向けて協力している。	「1人ひとりの思いと人の輪を大切にし、地域に根差したホームづくり」を独自の理念として、職員の目のつく各階のフロアに掲示している。管理者と職員は理念の内容を常に意識して、利用者が地域の中で安心した暮らしが送れるように、日々の業務の中で確認しながら、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス対応の為、現在は地域との交流は行えていない。	自治会に加入し、地域の夏祭りや防災訓練、地域の神社の催事等には積極的に参加している。2年前の大阪北摂地震や大型台風21号時には、自治会長自らが気にかけて、安否確認に来られた。事業所は災害時の地域一時避難所にと、申し出ている。「メイプル箕面新聞」の180部数を地域へ配布するなど、地域の一員として良好な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス対応の為、現在は地域との交流は行えていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対応の為、運営推進会議は行えていないが、家族様などには、現在の様子などをお知らせするなどして、意見などを頂いて対応するよう努めている。	前年度までは2か月に1回の運営推進会議は行われていた。参加者は自治会長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員、箕面職員、家族、職員の参加で、サービス内容や質の向上に向けて双方向的な会議が開催されている。今年度はコロナ禍防止対策として、会議は書面報告とし、後日、関係者には資料を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を通じて行っている。	市の広域福祉課を窓口にして、事故報告や事業所の実情などを折に触れて伝えている。グループホーム連絡会議や運営推進会議にも市職員の参加があり、いろいろな研修会や情報を得ている。市の行事などで電話や出向くなど、様々な面での協力関係も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、身体拘束防止委員会を開催し、スタッフに向けても、身体拘束をしないケア方法についての資料の内部研修の実施や資料回覧などを行い取り組んでいる。	3か月に1回、身体的拘束等の適正化の為に委員会を開催し、職員に向けても身体拘束をしないケアの方法等についての研修を定期的実施している。難しい事例がおきた時は、必ず行政に相談し、正しい指導を受けて、家族とも話し合い、本人の状況を改善する方向に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常から意識の向上を持ち、虐待などになりうる行為を見過ごすことの無い様、注意喚起を行いながら、防止を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会がなく制度の理解も不十分である。学んでいく必要性はあると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、管理者が行っているが、介護職員についても、契約内容の把握に努め、家族様の質問や疑問に答える事が出来る知識が必要と思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス対応の為、家族様の面会制限が有り、直接意見は頂けにくくなっているが、電話等で頂いた意見は、真摯に受け止め、日常の業務に反映させている。	コロナ禍以前は、家族の訪問は多く、運営推進会議や事業所の行事など、積極的に参加して意見、要望などを聞き取っていた。コロナ禍になって家族の面会制限を実施しているが、管理は定期的にブログの更新をし、必要な事は細めに電話やメールなどで連絡をしている。面会の要望については、状況を判断しながら条件付きで短時間の面会を実施する場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に対しては、直接意見や提案をし、代表者に対しては管理者を通じ、改善を要することに関してはどのようにするかなどの回答を得て、反映させる事が出来ていると思う。	管理者は毎月のスタッフ会議で職員からコロナ禍に必要な物品購入(空気清浄器)や人員不足の訴え、そしてスキルアップの為の研修実施の要望などを聞く機会を設けている。管理者はその要望を法人代表へ繋げて、職員が働きやすい環境造りの改善に努力をしている。福利厚生の改善は、職員の自発性や向上心を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員のモチベーションを上げる事に協力的で、職場環境を整えようとしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、連絡会などを通じ、同業者との情報交換や研修会に参加できているが、介護職員は、情報交換や資格取得に向けての研修会など、コロナウイルスの影響もあり行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、ネットワークの構築が行えているが、介護職員としてのネットワークづくりは出来ておらず、交流の機会はない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行った面談を基に、アセスメント表を作成し、対象者の希望や要望を含めて職員間に事前に周知を行い、入居後のケアに反映させている。また、入居後も要望などを傾聴し問題改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との連携を密にとるように努め、情報を共有し、要望などにできる限り応えられるように職員間で周知徹底を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、一番望んでいる支援は何かを、家族様に確認し、ケアプランへの反映等で、関わる職員全員に周知している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されてからの本人様の行動や言動を職員間で共有し、一方的なケアにならない様一緒に出来る事や、役割も考えながら、声掛けを行う様注意している。また、入居者様同士の関係を構築できる様、レクリエーション等を通じて、交流機会の確保に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には近況報告をし、出来るだけ日頃の様子を伝えるようにしており、家族様の望むケアに近づく様共に支える関係性を提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人等の面会は殆ど無い。家族様を通じ、その様な関係性が維持できる様声掛けをさせて頂いている。	以前は利用者の知人の訪問があったが、利用者は入居歴が長く、平均年齢89.5歳と高齢化して、友人、知人の訪問は殆どなく、家族、親戚の訪問に限られてきている。職員は時々、用事がある時、ドライブを兼ねて、町の移り変わりを感じてもらったりし、常に利用者の為にどうしたらよいかと工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の共通の話題を提供したり、レクリエーションに参加してもらう様声掛けを行っている。少しずつでも関係性を構築出来る様職員が間に入り、働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した家族様で会っても、行事などで関わりが持てそうな時には、ご案内をする等、関係性の持続に努めている。また、必要に応じて、相談や支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報で、嗜好や思い等を把握し、会話や行動等から、本人の思いを読み取り、本人本位の支援が行える様、職員間で情報共有に努めている。	入居時のアセスメントシートを基に、家族の協力も得て、本人の暮らしの意向や希望を把握し、これまでの利用者の生活の過程を大切に、思いや意向をくみ取る努力をしている。困難な場合は本人の視点に立って本人の希望に添えるようケアを検討しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談等で、生活歴を含めて家族様からの聞き取り等を基に、本人の意向を把握して、意向に沿った支援を、行うことが出来る様務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族様からの聞き取り等で、本人の一日の過ごし方等を把握し、身体状況から可能な能力が、温存出来る様な関わりを持ち、個々の日々の日課が確立出来る様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のユニット会議で、ケアについての意見交換を行い、各職員が統一したケアが行える様にし、介護計画にも反映させるようにしている。	毎月のユニット会議で利用者個々の状態をみんなで見え、意見をいろいろ出し合い、モニタリングを行っている。介護計画は短期目標を6ヶ月としてケア記録、業務日誌、個別の連絡ノートを活用し作成しているが、身体能力や状態の変化には即対応して新しい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケアの中からの気づきや意見等を、積極的に職員間で情報交換を行い、ケア記録や業務日誌、個別の連絡ノートを活用し、情報の共有に努めている。これらを基に、ユニット会議等で、検討する機会も設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科、歯科、精神科等の医療機関の往診、理美容は継続し行っているが、その他外部からの療法などを利用するサービスは、感染症対策の現在は行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣行事、地域の行事等参加は見合わせている為、関係作りは出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関の往診はあるが、本人や家族様が入居前のかかりつけ医の往診を希望される場合継続しての受診も可能で、行っている方も居る。施設及び看護師が当該医療機関と連携を取り、適切に医療が受けられるように支援している。	従来からのかかりつけ医(往診)にかかっている利用者は1名で、その他は利用者・家族の了承のもと24時間連絡が取れる協力医の往診(内科月2回、精神科月1回、歯科週1回)を受けている。眼科、外科、整形外科は家族が同行しているが、困難な場合は職員が同行している。受診内容は介護記録に記入して情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な情報等を看護師に、報告、相談を行い、医療的なアドバイスや、提案を受けることで、個々に合った適切なケアが行えるように、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合等は、医療機関との情報共有に努め、管理者などが退院前カンファレンスに参加する等し、退院後の生活に不安が残らない様に体制づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に看取りの意向が有る場合、看取り介護指針にのっとり、家族様と看取りの進め方を相談していきながら、チームでのケア方針の統一を図り、本人や、家族様の支援を行っている。	入居時に看取り介護指針を説明し、同意を得ている。各ユニットに1名ずつ看取りが近い利用者がいる。職員からの要望には、経験豊富なユニットリーダーが指導・研修を行っている。家族、医師、看護師、職員で話し合いを重ね、ユニット会議でも話し合い、対応方針の共有を図りながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会が中心となり、応急手当や初期対応等の研修、シュミレーションの場を設け、各スタッフがそれぞれ対応することが出来る様、スキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の提案により、災害時のメールでの安否確認システムの導入が行われ、自治会との連携が構築されている。しかし、消防訓練は実施できているが、災害に特化した訓練は行っていない。	年2回消防訓練を行っている。直近では昨年12月に避難経路の確認、火災通報から消防署への連絡方法、水消火器による使用方法の実践を行った。すぐに駆け付けられる職員は3~4名おり、地域との協力体制も構築できているが、実際の避難訓練への参加は実現していない。備蓄は水、食料品等3日分を用意している。	通常の運営推進会議では自治会長や近隣住民代表の参加もあるので、会議開催時に避難訓練への参加を要請し、利用者の見守り依頼など模擬訓練を行うことが望まれる。また、事業所が地域の高齢者の避難所としての申し出を積極的に広報するなど地域貢献を果たしながらの事業所運営を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した言葉かけ等の対応を、職員間で注意しながら行っている。	人権研修を年1回行っている。言葉掛けには特に注意し、トイレ誘導時は、さりげなく利用者本人にだけ聞こえるようにし、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。不適切な対応には現場の職員同士で注意し合うようにしているが、難しい場合には管理者が個別に注意している。個人情報の管理は適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や行動から、出来る限り思いを受け止める様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ、業務優先の支援となってしまう様配慮しているが、どうしても危険な動きの多い入居者様の支援を中心にしてしまいがちで、各入居者様個々の希望に沿った支援があまり行えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、十分気を配り行い、家族様が望まれる、その人らしい身だしなみを、行うよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が、食事の準備にかかわることはできていない。下膳や台拭き等行ってもらえる時には、危険が無い様見守りながら行っている。	食材業者による献立を9名の調理専門スタッフが交替で調理している。食事の前にはビデオを見ながら嚥下体操を行ったり、歌番組のDVDに合わせて歌ったりしている。クリスマス会は毎年家族と一緒にしているが、本年は規模を縮小してユニット毎に開催し、クリスマス特別メニューに加え職員による生演奏やプレゼントもあり、楽しいひと時となった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については、個々の日々の記録で状況を把握して、できる限り摂取量を確保して頂ける様に、その人の嗜好を考え、摂り易いものを用意し、声掛け、介助を行っている。また、食べやすい、飲み込みやすい、むせやすいなど個々の状況を考えながら、ミキサー食等の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施の有無についてチェックをし、声を掛けを行いながら、口腔ケアに誘って口腔内清潔に努めている。うがいなどが充分に行えない方については、口腔ティッシュ、口腔スポンジブラシなどを使い、フォローしている。職員は、訪問歯科より毎月口腔衛生の方法等も助言をいただき周知している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のテープ式おむつの使用者はおられないが、夜間のみ使用している方は1名おられる。個々の排泄パターンを把握し、チェックしながらトイレ排泄に誘い、トイレでの排泄を目標に対応している。	車いす利用者が9名いるが全員トイレ誘導している。便座に座ると排泄できる場合もあるので、排泄パターンに基づきトイレでの排泄を習慣づけるようにしている。夜間は2時間ごとに見回り、声掛けによりトイレ誘導しているが、安眠重視の利用者には大きめのパッドを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や体を動かす事への働きかけを出来る限り多くし、適切な排便コントロールを目標にケアを行っている。水分が摂りにくい方に対しては、お好きな飲み物や、水分ゼリー等少しでも多くの水分を摂れる様日々の水分量に気を配っている。便秘気味の方には、便通をよくする為、起床後ヨーグルトやバナナ等を提供したり、腹部マッサージ、トイレでの洗浄機を使用する等の刺激等を活用し、個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を予め決めておき、定期的に入浴が出来る様に対応を行っている。失禁等で身体清拭が必要な場合には、入浴対応を随時行う等、清潔保持に努めている。	2方向介助ができる浴槽とリフト浴を導入している。入浴日は週2日としているが、できる限り利用者の意向に沿うようにしている。入浴拒否の場合は職員の交替や時間変更や翌日再度声掛けをしている。利用者それぞれお気に入りのシャンプー、リンスを持参し、一人での入浴希望者には扉の外から見守りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等に応じて日中臥床して頂く他、夜間に安眠出来る様、昼食後の昼寝を30分から1時間位を限度に、出来るだけして頂く様にしている。また、夜間に興奮気味に成ったり等入眠出来ない時には、安心出来る声掛けを行ったり、就寝まで寄り添う等個々の対応を行い、安眠への移行を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者様の薬剤情報は、いつでも確認出来る様まとめられており、変更時等は、記録を必ず行い周知を図っている。服薬支援は、個々に応じて行い、症状の変化や服薬状況(錠剤、散剤の飲み込み等)を見ながら、医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が、出来る事はスタッフが準備を行い、個々の楽しみが実践出来る様な環境整備に努めている。気分転換等の為に、違うフロアや、1階へ降り散歩に同行する等、臨機応変な対応を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩の同行は行えているが、屋外の外出は、通院以外は現在は行えていない。	日常的な外出は近隣の散歩を週3~4日行っているが、コロナ禍もあり外出は難しい状況である。全員で出かけることはできないが、11月には2~3名ずつ紅葉狩りや近くの見晴らしのいい公園にドライブに出かけた。コーヒー好きの利用者の希望で居室担当と喫茶店に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に於いて、個々の金銭管理は行っておらず、家族様管理となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話をすることは殆ど無く、電話をしても誰と話をしているか理解が出来ない方が多い。家族様からの手紙は、スタッフが代読し聞いてもらうが、個々が、字を書くことが出来ず手紙を書けない為、やり取りは行えていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節感を感じて頂ける様装飾を行ったり、実施した行事等の様子の写真を掲示し、楽しんで頂ける様にしている。トイレは、常に灯りを付けておき、入居者様がトイレの場所を分かり易い様にしている。	居間兼食堂は明るくすっきりしている。壁面には大きなカレンダーやお正月の吊り下げ飾り、おせちを前にした利用者の笑顔の写真が飾られている。大型の空気清浄機を各ユニットに設置し、換気にも心掛けている。トイレの場所が解りやすいように常に灯りを付けるなど、居心地のよい共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内では、入居者様がテーブルやソファを自由に使用して頂ける様に、配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご家族様にもご協力を頂き、快適に過ごせる様使い慣れた家具や物品の配置、装飾を行って頂き、本人様にとって居心地の良い環境を作る様に努めている。	表札にはミニサイズのしめ縄飾りが付けられ、居室内はベッド、洗面台、クローゼット、エアコン、防災カーテンが設置している。自宅から馴染みの整理タンスや肘掛け椅子、ぬいぐるみなどを持ち込んでいる。壁面には、利用者ごとに誕生日当日に行っている誕生日会の記念写真とお祝いの言葉が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内表示を分かり易くするが、表示を取り除く方が居る為、分かり易い様灯りを点け、ドアは常に開けている。また、自身の居室が分かり易い様、本人様の写真や目印になるものを取り付ける等、安心して自立した生活が行える様配慮を行っている。		